



2026 年 6 月 1 日(月)

報道各位

**優れたクリエイティブを表彰する日本最大級のアワード
「2026 66th ACC TOKYO CREATIVITY AWARDS」
6 月 1 日（月）よりエントリー受付開始！**

一般社団法人 ACC（英文名：All Japan Confederation of Creativity、東京都港区、理事長：小郷 三朗）は、あらゆる領域のクリエイティブを表彰する日本最大級のアワード「2026 66th ACC TOKYO CREATIVITY AWARDS」（URL：<https://www.acc-awards.com/>）のエントリー受付を、2026 年 6 月 1 日（月）より開始いたしました。

応募部門は、フィルム部門、フィルムクラフト部門、ラジオ&オーディオ広告部門、マーケティング・エフェクティブネス部門、ブランデッド・コミュニケーション部門、PR 部門、デザイン部門、メディアクリエイティブ部門、クリエイティブイノベーション部門の全 9 部門です。



エントリー期間は、2026 年 6 月 1 日（月）～6 月 30 日（火）18 時までです。作品の応募は、「ACC TOKYO CREATIVITY AWARDS」特設サイト（以下、アワードサイト）にてユーザー登録後、マイページよりご応募いただけます。

各部門の「ACC グランプリ」をはじめとする全入賞作品は、2026 年 10 月中旬にアワードサイトに発表され、11 月 18 日（水）に開催される贈賞式にて表彰いたします。

「ACC TOKYO CREATIVITY AWARDS」では、より多くの秀逸な作品を顕彰することで、さまざまな企業や団体、クリエイターの日頃の取り組みに光を当てると共に、さらなる日本のクリエイティビティの発展に貢献すべく努めてまいります。

なお、各部門の審査委員や応募要項など、詳細は以下の通りです。



「2026 66th ACC TOKYO CREATIVITY AWARDS」概要

【エントリー期間】

2026年6月1日（月）～6月30日（火）18:00

- ・前期料金対象期間：6月1日（月）～6月15日（月）23:59までにエントリー完了分
- ・後期料金対象期間：6月16日（火）～6月30日（火）18:00までにエントリー完了分

【部門構成および参加資格】

■フィルム部門

- ・A カテゴリー（テレビCM、地域テレビCM）

2025年7月1日～2026年6月30日までの間に一般社団法人日本民間放送連盟に加入している放送局において初放送されたCM。

- ・B カテゴリー（Online Film）

2025年7月1日～2026年6月30日までの間に、Web上で公開されている映像広告。
初公開日は問わない。

詳細は応募要項（<https://www.acc-awards.com/2026fes/film/>）をご確認ください。

■フィルムクラフト部門

2025年7月1日～2026年6月30日までの間に初公開された動画。

※サブカテゴリーの設定があります。

※サブカテゴリーは、あくまで部門の領域を理解してもらうためであり、審査を行う上でのガイド的なものです。
カテゴリーごとの賞を出すためのものではありません。

詳細は応募要項（https://www.acc-awards.com/2026fes/film_craft/）をご確認ください。

■ラジオ & オーディオ広告部門

- ・A カテゴリー（ラジオCM、地域ラジオCM）

2025年7月1日～2026年6月30日までの間に一般社団法人日本民間放送連盟に加入している放送局において初放送されたCM。

- ・B カテゴリー（オーディオ広告）

2025年7月1日～2026年6月30日までの間に日本国内で公開・実施された、音声広告。

※A カテゴリー、B カテゴリーの重複応募はできません。

詳細は応募要項（https://www.acc-awards.com/2026fes/radio_audio/）をご確認ください。

■マーケティング・エフェクティブネス部門

2025年7月1日～2026年6月30日の間に、テレビCM、ラジオCM、新聞・雑誌、Web、イベント等で展開されたキャンペーン施策。

※継続中のキャンペーンであれば、過去にエントリー歴のあるものも応募が可能です。

ただし、過去にエントリーした際と、「成果」の違いを明確に示してください。

<サブカテゴリー> エントリーの際に、以下A・Bのいずれかをご選択ください。

A：ショートターム・エフェクティブネス (SE)

単年度のマーケティング活動やクリエイティブアイデアにより、成果をあげたキャンペーンを評価します。

B：ロングターム・エフェクティブネス (LE)

複数年にわたって持続性のあるマーケティング活動やクリエイティブアイデアにより、生活者とのエンゲージを深め、今年その成果をさらに向上させたキャンペーンを評価します。

※サブカテゴリーは、あくまで部門の領域を理解してもらうためであり、審査を行う上でのガイド的なものです。カテゴリーごとの賞を出すためのものではありません。

※ロングターム (LE) については、ローンチの時期が分かるようにエントリーシートの中に必ずご記載ください。

詳細は応募要項 (<https://www.acc-awards.com/2026fes/me/>) をご確認ください。

■ブランデッド・コミュニケーション部門

2025年6月1日～2026年6月30日の間にローンチもしくは、リニューアルし展開されたブランデッド・コミュニケーション (広告/キャンペーン/ブランデッド・コンテンツ)。

※2025年6月1日～2025年6月30日の作品は、昨年応募されていないことが条件です。

※複数カテゴリーへの応募は可能です。

・ A カテゴリー：プロモーション/アクティベーション

商品やサービスの購入や利用に対して、ターゲットの積極性を促すことができた最も新しく創造的なアイデアを表彰します。

・ B カテゴリー：ソーシャルインフルエンサー

ブランドのために創られた、ソーシャルメディアやデジタル上のコンテンツの優れたクリエイティビティや美しい設計、拡散力、そしてコミュニケーションの質を表彰します。

・ C カテゴリー：デジタルクラフト

デジタルテクノロジーを活用したり、現ソーシャルメディア環境を活かした卓越したデザイン、ユーザーエクスペリエンス、クラフトマンシップを表彰します。



詳細は応募要項 (<https://www.acc-awards.com/2026fes/bc/>) をご確認ください。

■PR 部門

2025年6月1日～2026年6月30日の間にローンチもしくは、リニューアルし展開されたPR活動（コーポレートPR、マーケティングPR、ソーシャルキャンペーン、パブリックアフェアーズ、クライシスコミュニケーション、CSR活動／SDGs活動、インターナルコミュニケーション、地域創生等）。

※過去にエントリーした作品でも継続中のPR活動であれば、応募可能です。

ただし、過去にエントリーした際から「クリエイティビティ」という観点の新たなチャレンジや「成果」の違いを明確に示してください。

詳細は応募要項 (<https://acc-awards.com/2026fes/pr/>) をご確認ください。

■デザイン部門

2025年6月1日～2026年6月30日の間にローンチもしくは、リニューアルし展開されたデザイン。

※2025年6月1日～2025年6月30日の作品は、昨年応募されていないことが条件です。

※コンセプトやプロトタイプは応募不可。

<審査対象カテゴリー>

1. ブランドデザイン分野（ブランディングや広告に関するコミュニケーションのデザイン）
2. エクスペリエンスデザイン分野（サービスやUI/UX、インスタレーションのデザイン）
3. ソーシャルデザイン分野（地域や社会の課題解決など、未来に向けてのデザイン）
4. プロダクトデザイン分野（プロダクトやパッケージなど製品に関するデザイン）
5. スペースデザイン分野（空間や施設、建築など場に関するデザイン）

※審査対象カテゴリーは、エントリー者に部門の領域を理解してもらうためであり、審査を行う上でのガイド的なものです。審査対象カテゴリー別の賞を出すためのものではありません。

詳細は応募要項 (<https://www.acc-awards.com/2026fes/design/>) をご確認ください。

■メディアクリエイティブ部門

2025年6月1日～2026年6月30日の期間に実施された（放送・出稿等された）、メディアのアセットを活用した仕掛けや取り組み。

※2025年6月1日～2025年6月30日に実施されたものについては、昨年応募されていないことが条件です。

詳細は応募要項 (<https://www.acc-awards.com/2026fes/mc/>) をご確認ください。



■クリエイティブイノベーション部門

「ビッグ・アイデア×テクノロジー」

未来を創り出す、世の中を動かす可能性のあるアイデアとテクノロジーとの掛け算で産み出された
プロダクト&サービスとプロトタイプ。

- ①企業の新規プロジェクト
- ②創造性の高いスタートアップ
- ③クラウドファンディングや研究機関等のプロトタイプ
- ④地方や団体での新しいビジネス

※上市または社会実装、ローンチの時期は問いません。

※昨年エントリーしたものでも応募が可能です。その場合は、従前のものとの違いや差分を明らかにしてください。

詳細は応募要項 (<https://www.acc-awards.com/2026fes/ci/>) をご確認ください。

【審査委員長】

■フィルム部門 ※新任

花田 礼 氏 (電通/クリエイティブディレクター、プランナー)

■フィルムクラフト部門

山田 智和 氏 (Caviar
Tokyo Film/映像作家・映画監督・写真家)

■ラジオ&オーディオ広告部門 ※新任

林 尚司 氏 (電通/クリエイティブ・ディレクター)

■マーケティング・エフェクティブネス部門 ※新任

向井 育子 氏 (味の素/マーケティングデザインセンター センター長 兼 コミュニケーションデザイン部長)

■ブランデッド・コミュニケーション部門

栗林 和明 氏 (CHOCOLATE/チーフコンテンツオフィサー)

■PR 部門 ※新任

伊東 由理 氏 (LINE ヤフー/執行役員 コーポレートコミュニケーション CBU リード
日本パブリックリレーションズ協会/副理事長 兼 企業部会 部会長
日本人材派遣協会/PR アドバイザー)



■デザイン部門 ※新任

木住野 彰悟 氏 (6D-K/アートディレクター・グラフィックデザイナー)

■メディアクリエイティブ部門 ※新任

松崎 容子 氏 (フジテレビジョン/執行役員)

■クリエイティブイノベーション部門 ※新任

小池 藍 氏 (THE CREATIVE FUND, LLP/代表パートナー
日本ベンチャーキャピタル協会/理事)

<各部門の審査委員長メッセージおよび審査委員>

<https://www.acc-awards.com/juries2026/>

<各部門の審査委員一覧>

資料1「各部門 審査委員一覧」をご参照ください。

【コラボレーション】

■「ゲッティイメージズ」

マーケティング・エフェクティブネス部門、ブランデッド・コミュニケーション部門、PR 部門、デザイン部門、メディアクリエイティブ部門、クリエイティブイノベーション部門の各応募資料に、ゲッティイメージズの画像素材を無料で使用することができます。

<ゲッティイメージズご利用案内>

<https://www.acc-awards.com/other/gettyimages/>

■「ショートショート フィルムフェスティバル & アジア」

フィルム部門 B カテゴリー (Online Film) では、米国アカデミー賞公認・アジア最大級の国際短編映画祭「ショートショート フィルムフェスティバル & アジア」BRANDED SHORTS 部門

(<https://brandedshorts.jp/about/>) とのコラボレーションを実施。ACC ファイナリスト以上に
入賞した作品は、エントリーフィー無料で同部門への応募が可能となります。



【ロゴ、トロフィー】



< 「ACC TOKYO CREATIVITY AWARDS」 特設サイト >

URL : <https://www.acc-awards.com/>

< 主催：一般社団法人 ACC >

URL : <https://www.acc-cm.or.jp/>

【ACC TOKYO CREATIVITY AWARDS とは】

「ACC TOKYO CREATIVITY AWARDS」は、テレビ、ラジオ CM の質的向上を目的に、1961 年より開催する広告賞「ACC CM FESTIVAL」を前身とし、2017 年よりその枠を大きく広げ、あらゆる領域におけるクリエイティブを対象としたアワードにリニューアルしました。

名実ともに、日本最大級のアワードとして広く認知されており、最高賞である「ACC グランプリ」はクリエイティブにたずさわる人々の大きな目標となっています。

【ACC とは】

よい CM の制作と放送の実現に寄与することを目的として、1960 年に活動を開始しました。

ACC は、広告主・広告会社・制作会社・メディアの 4 業種のメンバーを中心に構成され、業種の枠を超え、グローバルな視点から日本のクリエイティブ性の発展に貢献すべく活動しています。

本件に関するお問い合わせ

〒105-0003 東京都港区西新橋 2-4-2 西新橋安田ユニオンビル 6F

TEL : 03-3500-3261 FAX : 03-3500-3263 URL : <https://www.acc-cm.or.jp/>

一般社団法人 ACC 担当：平川



「2026 66th ACC TOKYO CREATIVITY AWARDS」

資料 1

各部門 審査委員一覧

(敬称略、審査委員は五十音順)

■フィルム部門

審査委員長

花田 礼 (電通/クリエイティブディレクター、プランナー)

審査委員

有元 沙矢香 (電通/クリエイティブディレクター、コピーライター)

市川 晴華 (CHOCOLATE/プランナー、クリエイティブディレクター)

市之瀬 浩子 (TBWA\HAKUHODO/脚本家、CM プラナー)

大澤 創太 (NERD/代表取締役、クリエイティブディレクター)

奥山 雄太 (SIX/クリエイティブディレクター)

栗田 雅俊 (電通/CM プランナー、コピーライター)

小堀 友樹 (電通 (Creative KANSAI) /CM プランナー、コピーライター)

指原 莉乃 (太田プロダクション/タレント)

佐藤 雄介 (電通/クリエイティブディレクター、CM プランナー)

澤本 嘉光 (dentsu japan/グロースオフィサー ECD)

中田 みのり (博報堂/CM プラナー、映像監督)

まるそう (CHOCOLATE/プランナー)

水本 晋平 (電通/クリエイティブディレクター、プランナー)

山崎 隆明 (Watson-Crick/クリエーティブディレクター、プランナー、コピーライター)

以上

■フィルムクラフト部門

審査委員長

山田 智和 (Caviar

Tokyo Film/映像作家・映画監督・写真家)

審査委員

河瀬 直美 (映画作家) ※「瀬」は正しくは旧字体

佐渡 恵理 (映像作家)

関 和亮 (koe/Director、Art Director、Photographer)

竹内 スグル (GLASSLOFT/映像監督、DOP、写真家)

田中 裕介 (Caviar/映像ディレクター)

長久 允 (電通/映画監督、脚本家)

林 響太郎 (DRAWING AND MANUAL/取締役、ディレクター)

堀田 英仁 (映像監督)



柳沢 翔 (伊達事務所/ディレクター)
YUANN (GENZONE、kidzfrmnnowhere/Director、Photographer)

以上

■ラジオ&オーディオ広告部門

審査委員長

林 尚司 (電通/クリエイティブ・ディレクター)

審査委員

大石 将平 (TBWA\HAKUHODO/コピーライター、クリエイティブディレクター)
河口 泰子 (博報堂クリエイティブ・ヴォックス/コピーライター、CMプランナー)
正樂地 咲 (電通/コピーライター)
直川 隆久 (電通 (Creative KANSAI) /クリエイティブ・ディレクター、CMプランナー、コピーライター)
中山 佐知子 (ランダムハウス/代表)
原 壮俊 (K-MIX (静岡エフエム放送) /コピーライター、番組ディレクター)
原田 堅介 (CHERRY/クリエイティブ・ディレクター、CMプランナー、コピーライター)
南 理子 (文化放送/メディアビジネス局ネットワークソリューション部 CMクリエイティブ)
吉岡 由祐 (大広/クリエイティブディレクター、CMプランナー、コピーライター)

以上

■マーケティング・エフェクティブネス部門

審査委員長

向井 育子 (味の素/マーケティングデザインセンター センター長 兼 コミュニケーションデザイン部長)

審査委員

青木 貴志 (マッキンワールドグループホールディングス/代表取締役社長兼 CEO)
糸瀬 大祐 (サントリーホールディングス/宣伝部 部長)
井上 佳那子 (博報堂/クリエイティブディレクター、IMCプランナー、アクティベーションプランナー)
宇野 祥一 (ロート製薬/マーケティング&コミュニケーション部 副部長)
鎌田 航平 (パン・パシフィック・インターナショナルホールディングス/広報室 室長)
神永 慎吾 (サイバーエージェント/マーケティング事業本部 統括、エグゼクティブディレクター)
川崎 鋼平 (LIFULL 執行役員 CCO/LIFULL HOME'S 事業本部 部長 CMO)
白澤 勉 (日清食品/執行役員 マーケティング部長 兼 経営企画本部 部長)
田上 智子 (シナジア/代表取締役)
古市 丈二 (ロッテ/マーケティング本部 第1ブランド戦略部 部長)
前田 星平 (電通/クリエイティブディレクター、コミュニケーションデザイナー)
山崎 真理子 (ADK マーケティング・ソリューションズ/
エクスペリエンス・クリエイティブ本部 NEXT GEN クリエイティブ局 局長、
シニア・クリエイティブ・ディレクター、プランナー)

以上



■ブランデッド・コミュニケーション部門

審査委員長

栗林 和明 (CHOCOLATE/チーフコンテンツオフィサー)

審査委員

市川 晴華 (CHOCOLATE/プランナー、クリエイティブディレクター)

伊藤 みゆき (電通/コピーライター)

内田 まほろ (MoN Takanawa: The Museum of Narratives/アーティスティック・ディレクター)

奥山 雄太 (SIX/クリエイティブディレクター)

尾上 永晃 (電通/プランナー、クリエイティブ・ディレクター)

佐藤 カズー (Earth Centric Design Lab/CCO)

佐野 貴子 (サントリーホールディングス/宣伝部課長)

高木 新平 (NEWPEACE/代表)

田中 直基 (Dentsu Lab/Chief Creative Officer)

野田 紗代 (博報堂/アートディレクター)

畑中 翔太 (dea クリエイティブディレクター/BABEL LABEL 企画プロデューサー、脚本家)

花田 礼 (電通/クリエイティブディレクター、プランナー)

もにゃ (電通 ディレクター、プランナー/MONYA ディレクター、映像作家)

龍崎 翔子 (水星/代表取締役)

以上

■PR 部門

審査委員長

伊東 由理 (LINE ヤフー/執行役員 コーポレートコミュニケーション CBU リード
日本パブリックリレーションズ協会/副理事長 兼 企業部会 部会長
日本人材派遣協会/PR アドバイザー)

審査委員

岩澤 俊之 (電通 PR コンサルティング/統合コミュニケーション局 コーポレートコミュニケーション部 部長)

小国 士朗 (小国士朗事務所/代表取締役)

加藤 倫子 (電通/クリエイティブディレクター、PR ディレクター)

小林 史憲 (テレビ東京/報道局 カンブリア宮殿チーフプロデューサー)

坂本 香織 (第一ライフグループ/執行役員 Group Chief Brand and Culture Officer)

住友 聡子 (P&G ジャパン/執行役員 広報渉外本部 シニアディレクター)

関 航 (マテリアル/取締役 兼 Executive Storyteller)

財田 恵里 (博報堂/PR 局 部長、戦略クリエイティブディレクター、PR ディレクター)

塚本 幸代 (READYFOR/ブランド PR 部 部長)

砥川 直大 (The Breakthrough Company GO/クリエイティブディレクター)

登坂 泰斗 (オズマピーアール/リレーションズデザイン本部 副本部長、統合コミュニケーションデザイナー)

藤原 由唯 (イニシャル/代表取締役社長)

持富 弘士郎 (プラップジャパン/Planning Director)

以上



■デザイン部門

審査委員長

木住野 彰悟 (6D-K/アートディレクター・グラフィックデザイナー)

審査委員

黒田 英邦 (コクヨ/代表執行役社長)

佐藤 ねじ (ブルーパドル/クリエイティブディレクター、プランナー)

武部 貴則 (横浜市立大学/先端医科学研究センター コミュニケーション・デザイン・センター長)

田中 良治 (セミトランスペアレント・デザイン/ウェブデザイナー、グラフィックデザイナー)

田部井 美奈 (アートディレクター、グラフィックデザイナー)

筒井 晴子 (電通/Creative Director、Copywriter)

橋田 和明 (HASHI/クリエイティブディレクター、PR ディレクター)

松島 倫明 (コンデナスト・ジャパン/『WIRED』日本版 編集長)

吉開 菜央 (映像作家、振付家、ダンサー)

米澤 香子 (TBWA\HAKUHODO/Head of Innovation)

以上

■メディアクリエイティブ部門

審査委員長

松崎 容子 (フジテレビジョン/執行役員)

審査委員

大西 恒平 (集英社/第三編集部 三編メディアプロデュース室 室長)

木村 麻里子 (ソニー・ミュージックアーティスツ/代表取締役社長)

座間 ちおり (博報堂/企画プロデューサー)

嶋野 裕介 (電通/クリエイティブディレクター)

杉浦 充 (ADK マーケティング・ソリューションズ/マーケティングインテリジェンス本部 第1プランニング局
第1プランニンググループ プランニング・ディレクター)

ズナイデン 房子 (日本マクドナルド/取締役 上席執行役員 CMO)

前川 瞳美 (日本テレビ放送網/演出、ディレクター)

松村 真依子 (日産自動車/シニアマネージャー)

宮野 潤一 (エフエム東京 (TOKYO FM) /執行役員 総合プロデュース局長)

望月 省二 (アサヒビール/理事 マーケティング本部 マーケティング戦略部 部長)

以上



一般社団法人 ACC
(All Japan Confederation of Creativity)

■クリエイティブイノベーション部門

審査委員長

小池 藍 (THE CREATIVE FUND, LLP / 代表パートナー
日本ベンチャーキャピタル協会 / 理事)

審査委員

石田 健 (The HEADLINE 編集長)

太田 郁子 (Droga5 Tokyo part of Accenture Song / Chief Strategy Officer)

小布施 典孝 (dentsu japan / グロースオフィサー、Future Creative センター長、Executive Creative Director)

大長 敬典 (The Breakthrough Company GO / COO、Business Producer)

田中 溪 (投資家、ラジオパーソナリティ)

中馬 和彦 (みずほフィナンシャルグループ みずほ銀行 / 執行役員 CBDO)

古市 優子 (Comexposium Japan / 代表取締役社長)

坊垣 佳奈 (マクアケ 共同創業者 / Xinobi AI 非常勤取締役 / 品川女子学院 顧問 / サツドラホールディングス 社外取締役)

松本 紗代子 (Cloudflare Japan / 日本代表 兼 日本地域統括バイスプレジデント)

山崎はずむ (ナレッジワーク / CAIO)

以上

各審査委員のプロフィール等詳細につきましては、アワード特設サイトにてご覧いただけます。

■ <https://www.acc-awards.com/juries2026/>